

13 施設・設備

進捗状況報告

当初の目標、および2005年度において検討された状況の進捗状況は、以下のとおり。

1. 既存教室のAV化拡充を図る。→ 達成されず
2. 情報技術の発達、学院全体のシステムや学生等のニーズ変化に対応して、学部の機器・設備を充実させる。
→ 貸し出しパソコン増加による対応
3. 主にサーバによって提供される情報コンテンツを充実していく。
→2006年度に導入された、全学サイトによる充実
4. サーバの安定運用のための体制を充実し、技術的な改善をしていく。
→履修登録、成績発表などを行うほど、改善された。

2005年度自己点検・評価で記した「改善の具体的方策」

1. 現在、キャンパス総合開発検討委員会においてキャンパスグランドデザインの検討が行われているが、近い将来、最新設備が備わった全学共用棟が建設され、これによって教育研究環境の飛躍的な充実が図られることを期待する。→ 変化なし
2. 教室の割当て作業を少しでも円滑にするため、また教室の有効利用のため、使用率の低い第1時限および第5時限の活用について、特に専任教員に対してさらに協力を強く求める。
→ 変化なし
3. 教室等の機器・備品の維持管理とそのための予算化について、今後も教員の要望をふまえながら学部長室委員会を中心に検討を行い、教授会承認のもとですすめていく。
→ 変化なし
4. 多様な障がい者の学習環境を保障するためには、障がい者本人と家族の希望を聞いて適切な方法をとることが重要であるが、新たな検討課題が発生した場合は学部長室委員会が大学執行部と連携をとりながら、具体的な支援策を決めていく。
→ 別室受験で合格した学生のフォローを行うなど、フィジカル面だけでなく、メンタルなハンディを持っている学生への対応も行う。
5. 学生によるPC利用ニーズにはかなり応えられているが、情報機器の発達はめざましく、今後もニーズの変化を注視して、それに応える努力が必要である。また、無線LANはキャンパスのどこでも利用可能であることが理想であるが、これは学部での対応には限界があり、情報システム室などによる全学的な環境整備を待つ必要がある。
→ 変化なし
6. 学部ホームページについては、新設された学部広報委員会が他の広報手段と連携をとって充実させていく。
→ 全学のサイトに吸収の方針。
7. サーバの管理については、現行の教職員組織では限界があり、どのような管理体制が可能か検討する。
→ 変化なし

学内第三者評価

当初の目標は、概ね達成され、改善も進んでいる。しかし、1. 既存教室のAV化の拡充については達成されておらず、改善されることが望まれる。

つぎに、2005年度の「改善の具体的方策」に関しては、1. 最新設備整備、2. 教室の合理的運用、3. 機器・備品の維持管理と予算化、5. PC利用ニーズへの対応、7. サーバの管理の可能性は、学部単位での財政・人力的限界から対応しきれず、いずれも「変化なし」、とある。他学部でも同様の問題があると思われるが、大学全体として「集中と選択」による優先順位付けによる計画化が期待されるところである。

また、4. 多様な障がい者の学習環境保障は、前向きな姿勢として評価できる。